

今日のトピック **メキシコ、2会合連続で政策金利を据え置き** **メキシコペソは経済正常化への期待が後押し**

ポイント1 **政策金利を4.25%に据え置き**

- 12月17日、メキシコ銀行（中央銀行）は金融政策決定会合を開催し政策金利を据え置きました。声明は、前回に続き、据え置きはインフレが目標水準に収斂しつつあることを確認するための「一時停止」とし、緩和サイクルがまだ終わっていないことを示唆しています。
- 11月の消費者物価指数は、前年同月比+3.33%と4カ月ぶりに政策目標上限（4%）を下回りましたが、声明ではメキシコの11月のセールス期間が長期化したことなどが指摘されました。弊社では、2021年3月頃までインフレ圧力は低下傾向となり、2月に利下げを行う可能性が高いとみています。

【政策金利と消費者物価】

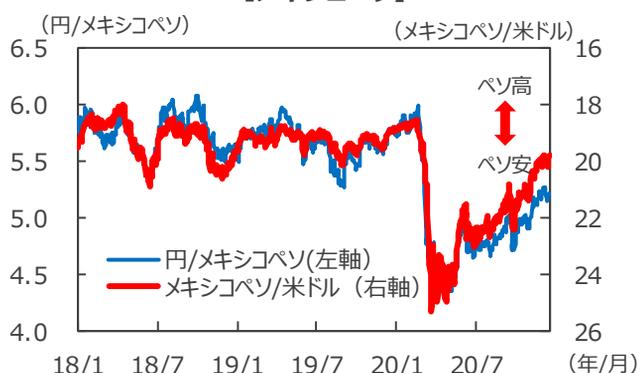


(注) 政策金利は2018年1月1日～2020年12月17日。
消費者物価は前年同月比、2018年1月～2020年11月。
(出所) Bloomberg L.P.、メキシコ中央銀行のデータを基に
三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 **米国依存、景気の回復力弱く**

- 足元のメキシコ経済は米国景気の回復に伴い改善しましたが、国内景気の低迷が引き続き産業全体を圧迫しています。11月に発表された四半期レポートでは、2020年のGDP成長率見通しは若干上方修正されたものの2021年は下方修正され、先行きの弱さが示されました。
- 弊社ではメキシコの2021年の実質GDP成長率見通しを前年比+2.5%と予想しています。財政を抑え気味に運営しており政策面での後押しが期待しにくいいため、市場予想（同+3.5%）に比べ慎重にみています。

【メキシコペソ】



(注1) データは2018年1月2日～2020年12月17日。
(注2) メキシコペソ/米ドルは逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 **ワクチン普及、経済正常化への期待がメキシコペソを後押し**

- メキシコペソは世界的な景気回復期待の高まりから市場にリスク選好の動きが広がる中、5月以降上昇傾向を辿っています。足元では、米ドル安や、米欧での新型コロナワクチン普及への動きなどを好感し、11月は対米ドルで約5%の上昇率となりました。世界的に新型コロナの感染が再拡大しているため、リスク回避的な動きが強まれば上値は抑制されますが、世界経済は各国・地域の積極的な金融・財政政策、ワクチンの普及などによって緩やかに回復すると考えられ、メキシコペソは市場環境に左右されながらも底堅い推移が見込まれます。

ここもチェック! 2020年12月 8日 「リスクオン」は続くのか (吉川レポート)
2020年11月16日 **メキシコ、政策金利を予想外に据え置き**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。